

北海道向け

ダイコンの優良品種ご紹介

雪印種苗(株) 北海道研究農場

安達英人

1 はじめに

昨年の北海道のダイコン生産は病害虫・生理障害が多発し、出荷量の増減が大きく、価格は全体的に安値となりました。雪解けの遅れからトンネル栽培の播種期が集中し、府県産の入荷が順調であったこともあり、6月は特に安値となりました。

7月下旬からの異常高温で、軟腐病・赤芯症が多発し、8月には集中豪雨の影響で横縞症が発生し、収量・品質とも最悪の状況になりました。

9月は7月播種時の高温による発芽障害・害虫の多発の影響で、収量は低下しましたが、10月にかけては品質も回復しました。

8～9月は猛暑が消費者の買い控えを招き、入荷量が少ない割には販売額が伸びていかないという結果になりました。

昨年のような『記録的な猛暑』では品種の選定だけでなく、品種の特性に適した栽培方法の検討も必要であると考えられます。

ここでは、品種特性を十分に発揮させるために、品種の使い分けと栽培のポイントについて紹介いたします。

2 各品種の特性(表1)

1) 喜太一(写真1)

トンネル栽培では根の伸びが良く、尻つまりの良い総太り型にそろいます。根長はトンネル栽培では35～37cm、マルチ栽培では38～40cm程度になります。

青首色は淡緑色ですが、肌つやが良く、ひげ根が細く少ないため、毛穴が小さく外観が優れます。

草姿は立性の濃緑中葉で、草勢は葉勝ちになりやすく、収穫直前に抽根してくるために曲がり根は少なくなります。

す入りは安定して遅く、生理障害の発生も少ないため安心して栽培できます。

☆栽培のポイント

① お盆以降の収穫では、根長が40cm以上の細長いダイコンになる例が多くみられます。播種終わりは6月10日前後とし、お盆前に収穫を終えるようにします。

② 早播きのマルチ栽培では、極端な低温が続くと抽苔の恐れがあります。抽苔防止には地温を上げてからの播種と、べたがけ資材の利用が有効です。

③ 施肥量は地力・栽植密度に応じて決めますが、窒素の施用量は播種期が遅くなるに従って減量します。

④ 昨年のような収穫時期の高温条件下では、マルチの肩・中央部に

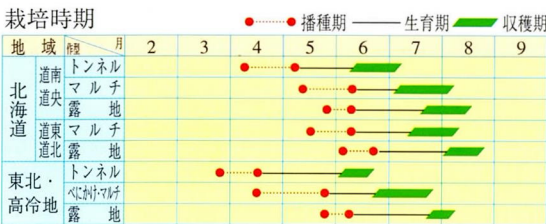
表1 品種特性表

品種名	草勢	適作型での生育日数	根長(cm)	根径(cm)	首色	ウイルス病	萎黄病	抽苔性	晩索性
喜太一	中	60	38～40	7	淡緑	●	●	●	●
晩抽涼太	強	60	35～38	7	緑	●	●	●	●
夏元太	弱	60	38～40	7	淡緑	●	●	●	●
涼太	中	60	35～40	7	緑	●	●	●	●

注) ●極強・極安定, ●強・安定



写真1 喜太一



切れ目を入れて熱気を逃がすと品質の低下が少なくなります。

2) 晩抽涼太 (新発売：写真2)

『涼太』をより晩抽に改良した品種で、首が鮮明で、肌の美しい夏ダイコンです。

根の太りは遅いほうですが、マルチ栽培では36~38 cm程度になります。

外観・品質は秋ダイコンに近く、青首色は緑色で、肌つやが良く、ひげ根の発生はほとんどありません。

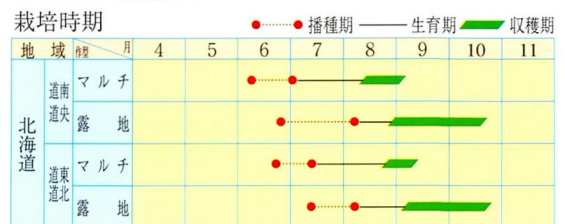
す入りは安定して遅く、生理障害の発生も少なく、品質は安定しています。

☆栽培のポイント

- ① 晩抽性は『喜太一』と『夏元太』の中間で、6月中旬からのマルチ栽培が可能です。また、8月上旬の播種では、尻つまり良好な総太り型の根形になります。
- ② 涼太に似て草勢が旺盛なので、6月播種期では窒素の施用量は少なめにします。多肥栽培ではくさび型・短根になりやすく、尻つまりも劣ります。



写真2 晩抽涼太



③ 6月播種の露地栽培では、根長が35 cm前後に仕上がるので、高畦マルチが適します。

④ 軟腐病は8月中旬~9月中旬に発生するので、播種後25日目、35日目頃に予防として防除を行います。

⑤ 高温・干ばつによる肌の障害(露地栽培)や萎黄病には夏元太のほうが強いので、発生の恐れのある圃場では夏元太をお勧めします。

3) 夏元太 (写真3)

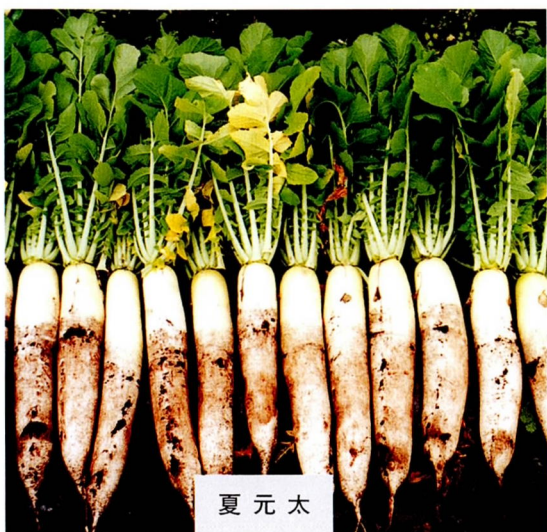
夏ダイコンとしては抽苔は安定しており、べたがけを併用したマルチ栽培では、6月上旬からの播種が可能です(道南・道央)。

高温時でも生育良好で根長38 cm、根径7.5 cm程度になり、根形も尻つまりが早く、総太り型に良くそろいます。

草姿は半立性の濃緑葉で、草勢がおとなしいため、曲がり、裂根も少なく栽培が容易です。

軟腐病、萎黄病に強く、生理障害の発生はごく少なく、安心して栽培できます。

青首色は淡緑色ですが、肌つやが良く、肉質はち密で、す入りは遅く、市場性に優れています。



夏元太

写真3 夏元太

栽培時期		● 播種期 — 生育期 ■ 収穫期										
地域	作型	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
北海道	道南	マルチ			●	●	●	■				
	道央	露地			●	●	●	■				
	道北	マルチ			●	●	●	■				
東高冷地	マルチ			●	●	●	■					
	露地			●	●	●	■					

☆栽培のポイント

- ① 6月播きはマルチ栽培が中心となりますが、多肥栽培や、収穫時の高温条件下では根のねじれ・変形が発生することがあります。施肥量は少なめとし、マルチ切り処理を行ってください。
- ② 7月播きは露地・シルバーマルチ栽培が適しています。
- ③ 8月播きは根長が30 cm程度と短くなります。播種終期は7月末とします。
- ④ 根形は安定して円筒形になりますので、輪切りの加工用では歩留まりが高く、高温期でも内部品質は安定しています。

4) 涼太 (写真4)

秋ダイコンの中では根長がやや短目で、根の太りが早く、曲がり根が少ない品種です。根長は37 cm程度に良くそろい、青首は濃緑鮮明で、市場性抜群です。

肉質はち密で、甘味があり、生食、煮物、漬物に適しています。

夏播きでの赤芯症、秋播きでの空洞症の発生は少なく、栽培が容易です。



写真4 涼太

栽培時期		● 播種期 — 生育期 ■ 収穫期											
地域	作型	月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
北海道	マルチ					●	●	■					
	露地					●	●	■					

☆栽培のポイント

- ① 秋播き系の中では晩抽性ですが、無理な早播きは避けます。7月中旬～8月中旬播種が最も適しています。
- ② 7月播きでは軟腐病が発生しやすいので、晩抽涼太と同様に防除を行います。
- ③ 8月中旬播きは生育期間が70日以上になりますので、窒素量は地力に応じて10～14 kg/10 a程度とします。

3 むすび

昨年の猛暑の中でも、品種の弱点を栽培技術で補っている産地は収量・品質が安定しており、市場の信頼も厚くなったと思われます。

品種の特性を理解し、なおかつ、栽培のポイントを知って、その地域にあった品種特性を発揮させる技術を身につけることが大切です。

当社では、今後も良質ダイコン生産のための品種育成、栽培試験を積極的に進めてまいりますのでご期待下さい。